

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K02074

研究課題名（和文）性別違和における成人M t Fの生活とQOLの実態およびQOLと化粧との関連

研究課題名（英文）The actual conditions of daily life and QOL of adult M t F with gender dysphoria and the relationship between QOL and makeup

研究代表者

井関 敦子（Iseki, Atsuko）

岐阜大学・医学部・教授

研究者番号：10363201

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：トランス女性8名に対して、2023年11月、2024年1月の2回、対面でスキンケアとメイクアップの講習を実施した。講師はトランスジェンダーのメイクアップを業務とする性的少数者野トランス女性への理解が深い者とした。化粧への認識や講習の効果について講習前、講習直後、講習2週間後、合計3回のアンケート、講習前にWHO-QOL SF-26による日常生活のQOL評価、当日講習前後での気分調査（アンケート）、講習前後の唾液アミラーゼによるストレスチェックを実施した。数量データと記述データは分析中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
少数者を対象とした対面の講習であるため、リラックスした雰囲気の中で開催でき、参加者は質問しやすいとの感想があった。化粧やスキンケアは、トランス女性にとってQOLを向上させ、ストレスを軽減し、自己肯定感に繋がる可能性が推測される。

研究成果の概要（英文）：Skin care and makeup training was conducted twice in person for eight transgender women, in November 2023 and January 2024. The instructor was a transgender makeup artist with a deep understanding of sexual minorities and transgender women. 1) Surveys were conducted three times in total regarding awareness of makeup and the effectiveness of the training: before the training, immediately after the training, and two weeks after the training. 2) Before the training, participants were assessed for their QOL of daily life using the WHO-QOL SF-26. 3) Mood surveys (surveys) were conducted before and after the training on the day of the training. 4) Stress checks using salivary amylase were conducted before and after the training. Quantitative and descriptive data are currently under analysis.

研究分野：助産学

キーワード：トランス女性 化粧 スキンケア QOL ストレス 唾液アミラーゼ 2次元気分尺度

1. 研究開始当初の背景

性別不合のうち、第2次性徴完了後のトランス女性は、女性ホルモンによる治療効果は少なく外見上の課題が大きい。社会適応が不良でQOLの低さも報告されている。しかしトランス女性にとってスキンケアや化粧は心の健康に関わる要素である。

2. 研究の目的

トランス女性のQOLの実態、スキンケア及び化粧に関する認識、ニーズ、実態を明らかにする。スキンケア及び化粧の実践講習がトランス女性に及ぼす心理的效果を検討する。

3. 研究の方法

化粧教室(講習)を開催し、その前後と教室当日、化粧に関する認識や実態(アンケート①②③)、健康度(WHO-QOL26)、心理状態(2次元気分尺度)、唾液アミラーゼ測定を実施した。講師は性的少数者へのメイクアップに就業する者を選定した。

表0 調査内容と方法

調査時期(イベント)	方法	測定内容(尺度)
化粧教室2週間前	質問紙	WHO-QOL26 アンケート①(化粧に関する認識、困りごと)
化粧教室当日(化粧教室) 2回開催(11月、1月) 1回2.5時間	質問紙 唾液検査	2次元気分尺度(講習前後:2回) 唾液アミラーゼ(講習前後:2回) アンケート②(講習の感想等)
化粧教室後2週間	質問紙	アンケート③(講習内容の活用状況)

4. 研究成果

結果

1. 化粧教室2週間前

LGBTQ関連団体の協力とスノーボウルサンプリングによって8名の協力者を得た。化粧教室は2023年11月(5人参加)、2024年1月(3人参加)の2回、開催した。

1) 個人の背景、化粧に対する認識、困りごと等(アンケート①)

8名から研究協力を得た。詳細は表1に示す。パス度を上げるための工夫(表2)、化粧の意義(表3)に関する記述をカテゴリー分類した。WHO-QOL26の平均点を年代別に示す(表4)。

表1 協力者の背景

n=8

項目	内訳	n	項目	内訳	n	
年齢(人)	10代	1	自認するパス度(人) (0-100)	20-30	3	
	40代	3		60	1	
	50代	4		90	1	
NA				3		
就業形態(人)	常勤	3	治療経験(人)	あり/治療中	6	
	非常勤	1		治療内訳	カウンセリング	6
	アルバイト	1		ホルモン剤	4	
	無職	1		性別適合手術	1	
	学生	2		顔面形成手術	2	
就業内容(人)	教育	1	咽頭骨切除	2		
	医療介護福祉	1	豊胸術	2		
	事務	2	なし	2		

製造	1
無職・学生	3

表2 パス度を上げるための工夫

カテゴリー	自由記述
女性の外見に変える治療	・ホルモン治療
女性らしくみえる工夫	・髪を伸ばす、ウィッグの使用、女性らしい髪形、 ・化粧、女性に見える化粧の工夫、眉間の窪みを隠すメイク ・女性らしい所作、肩幅を広く見せない姿
女性として生活する	・性別変更したことや病名を非公開で生活すること

表3 化粧の意義

カテゴリー	自由記述
女性としての自分が存在する方法	・自分らしさを維持する
女性として行動するための必須条件	・知らないはずい ・女性として振舞うため
生の実感を味わう	・生きている実感
精神の高揚	・気持ちをあげる

表4 WHO-QOL 26 の平均点

年齢	n	身体的側面	心理的側面	社会的側面	環境	全体
10代	1	2.42	2.33	3.00	3.25	2.69
40代	3	2.38	2.83	3.21	2.99	2.96
50代	4	2.88	3.42	3.74	3.79	2.62
全体	10	2.63	3.06	3.45	3.42	2.39

2. 化粧教室当日

(1) 気分(2次元気分尺度)とストレス(唾液アミラーゼ)

化粧当日は講師による講習前後で、気分(2次元気分尺度)とストレス(唾液アミラーゼ)を測定し、比較した。いずれの測定内容も平均値と最大得点の上昇があった。

表4 気分(2次元気分尺度)とストレス(唾液アミラーゼ)

測定内容(方法)		講習前	講習後
気分 (2次元気分尺度)	平均値	10	15.75
	中央値	12	16
	範囲	4-18	11-20
ストレス (唾液アミラーゼ)	平均値	33.8	44.3
	中央値	34	33
	範囲	24-44	26-94

(2) 講習内容の活用状況等 (アンケート②)

講習内容の有用性について 5 段階リカートスケール (ほとんど役に立たない～とても役に立つ) で質問したところ、8 名全員が「とても役に立つ」と回答した(表 5)。理由は個別的で実践的な指導、仲間との時間の共有、講師の態度への高評価であった(表 6)。

表 5 「講習の内容は役に立つか」

回答選択	人
ほとんど役に立たない	0
あまり役に立たない	0
少し役に立つ	0
まあまあ役に立つ	0
とても役に立つ	8

表 6 「とても役に立つ」の理由 (複数回答)

記述 (要約)	人
自分に合ったメイクを教授してもらった	2
具体的で実践的なメイク方法だった	1
仲間と同じ時間を共有できた	2
講師の熱心で的確な指導があった	2
知識が増えた	1
実践にはかなわない、実践のすばらしさ	2

3. 教室後 2 週間

1) 講習後の活用状況 (アンケート③)

講習で得た情報の活用について、4 段階リカートスケール (ほとんど活用することがない～大いに活用している) で尋ねた。学生や治療中のため「ほとんど活用していない」が 2 名、「かなり活用している」が 5 人、回答 ~ の理由が記述された(表 7)。

表 7 「講習で得た情報は活用できているか」に対する回答とその理由

回答選択	人	理由
ほとんど活用することがない	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学生なので生活上、化粧をしない ・治療後なので顔面のはれがありできない ・経済的理由で購入できない
少し活用している	1	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ化粧道具を購入できていない
かなり活用している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・化粧方法が変わった ・周囲から綺麗と言われる ・アドバイスを受けて化粧品を購入した
大いに活用している	0	N A

2) 講習後の自分の変化 (アンケート④)

講習後の自身の変化について尋ねたところ、4 つのカテゴリーに分類された(表 8)。

表 8 「化粧後の自身の変化」に関する回答

カテゴリー	記述 (要約)
高揚感の想起とモチベーションの継続	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の効果 (艶の向上、気分) を思い出しモチベーションがあがる
化粧やスキンケアへの意識が変化し前向きになった	<ul style="list-style-type: none"> ・スキンケアやメイクが楽しいと思えるようになった ・意識の向上、スキンケアの大切さの実感 ・化粧に対して前向きな気持ちになった ・スキンケアへの意識と行動が変化した ・スキンケアや化粧に前向きで熱心になった

メイクアップ技術の向上と自信	・技術が向上してきれいになった
女性としての自信の高まり	・きれいになったと言われ、気分が高揚する ・周囲から褒められる ・パス度が上がることで、女性としての自信が持てた ・出生時の性別が発覚する恐れなく自身が持てた

考察

1. QOL(WHO-QOL26)について

WHO-QOL26 の手引き（改訂版）に示された、年代別日本人集団（男女合計）の QOL 平均値と比較する。日本人集団の平均値は 40 代 3.28、50 代 3.33 であり、本研究結果の 2.96（40 代）、2.62（50 代）の方が低い値を示す。トランス女性の QOL の低さは先行研究で報告され、同様の結果である。

2. ストレス(唾液アミラーゼ)について

本研究結果では、講習前 34、講習後 33 であった。表 9 の唾液アミラーゼのストレスの度合との比較では、いずれも軽度のストレス状態だと判断できる。協力者はふだん、化粧やスキンケアに十分なかかわりを持っていない。この研究には進んで協力を申し出ていることから、この教室を楽しみに待っていたと考えられ、それが講習前の高いアミラーゼレベルとなり、終了後も同様であったと考えられる。8 人の平均値と中央値は上昇していることから、化粧は鎮静というよりも亢進作用をもたらすと推測できる。

表 9 唾液アミラーゼのストレスの度合

区分	単位（KU/L）
ストレスがない状態	0~30
ストレスがややある	31~45
ストレスがある	46~60
だいぶんストレスがある	61~

3. 気分(2次元気分尺度)

この尺度は、活性度、安定度、快適度得点がプラスの場合、快適で良好な心理状態にある（TDMS 手引き）。協力者 8 人について、講習前後の活性度、安定度、快適度得点は上昇しており、化粧やスキンケアの実技、講師による親切な教示は、快適で良好な心理状態になったと推測できる。

4. スキンケアやメイクアップに関するニーズや困りごと

協力者は、治療開始した者は 5 人であるが、10 代 1 人も含め、40~50 代のこれまで男性として生きてきた時間が長い人であり、化粧やスキンケアに関する情報を得にくかったという特徴がある。化粧方法やスキンケアについて蓄積された経験や情報が乏しいことが考えられる。

5. 化粧教室の効果と展望

コロナ禍を経て、対面式で化粧教室を 2 回開催した。1 回目は 5 人、2 回目は 3 人の参加で、少人数での講習は質問がしやすい雰囲気であったと考えられる。講師はトランス女性への化粧を業務のひとつとする専門職であるため、的確なアドバイスが可能であった。協力者は自分の特徴にあった化粧の実践的なテクニックを習得でき、質問等もできる雰囲気の性もあり、満足度が高かったと考えられる。また、化粧教室に当事者が集まり、同じ時間を共有し、つながる時間を持つことは、他者との関係性が希薄なトランス女性にとって重要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中塚 幹也 (Nakatsuka Mikiya) (40273990)	岡山大学・保健学域・教授 (15301)	
研究分担者	山口 琴美 (Yamaguchi Kotomi) (40432314)	名古屋市立大学・大学院看護学研究科・准教授 (23903)	
研究分担者	丸尾 亜喜代(三尾亜喜代) (Maruo Akiyo) (30632848)	岐阜大学・医学部・准教授 (13701)	
研究分担者	山田 奈央 (Yamada Nao) (90549776)	岐阜大学・医学部・助教 (13701)	
研究分担者	大橋 一友 (Ohashi Kazutomo) (30203897)	大手前大学・国際看護学部・教授 (34503)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------